

御坊畑の秋を楽しむ会

御坊畑地区で11月15日(日)、「御坊畑の秋を楽しむ会」が開催され、地区内外から多くの人が来場しました。

昔から地域で生産されている釜炒り茶(番茶)の文化を後世に残したいという思いから、地区を流れる蛸瀬川のほとりを茶室に見立て、伝統的の日本文化の野点傘の赤を配置し、「かきせ川流域の秋を楽しむ日」限定の特別な風景を創り、来場者をおもてなしました。

主催した同地区の尾崎憲二副区長は、「コロナ禍で工夫をしての開催となったが、町外からも来ていただき嬉しく思う。来年、状況が落ち着いていたら、さらに規模を大きくして実施したい」と話しました。



川のほとりに創られた風景

※同イベントは、毎年かきせ川流域の3地区合同で開催していますが、今年も新型コロナウイルスの影響によりイベントは中止し、御坊畑地区の催しとして実施しました。

柚子の収穫・搾汁作業

集落活動センター佐賀北部で約10年前から栽培している柚子の収穫が今年も10月28日(水)から4日間かけて行われ、約2.8トンの柚子が収穫されました。

4月に花が咲き、夏頃から段々と実が大きくなるとい同センターの柚子は、柚子部会のメンバーや地域住民23名で約150本の木から刈り取られました。



柚子の収穫風景

また、収穫された柚子は11月2日(月)から搾汁作業が始まり、果汁として各方面へ出荷されること。

同センターの大石正幸会長は、



収穫された柚子

「今年は例年と比較して実が小さく量も少ないが無事収穫ができてほっとした」と話しました。

まほろば Vol.8 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



黒潮町佐賀北部活性化推進協議会

会長 大石 正幸さん

集落活動センター佐賀北部の運営母体である黒潮町佐賀北部活性化推進協議会の代表を務める大石さん。同センターの立ち上げ以前から、地域の活性化や住民の集いの場を作ろうと活動。現在は、3つの部会に分かれている活動を支え、自身もその一員として積極的に活動を続けています。

※「佐賀北部」…市野瀬、佐賀橋川、拳ノ川、荷稻、小黒川、中川、鈴の8地区で構成される地域の呼称。

集落活動センター佐賀北部での活動について教えてください

平成27年1月に同センターを立ち上げました。私自身は、運営母体の前身である「黒潮町佐賀北部地域活性化推進協議会」の頃から活動に携わっています。

現在は会長を務めて約10年。活動は、一柚子部会「若山楮部会」「食部会」の3つに分かれていて、それぞれが力を入れて取り組んでいます。

今はちょうど柚子の収穫・搾汁の時期。約10年前から柚子の栽培をしており、収穫した柚子を絞って果汁を出しています。

3部会の活動以外にも、夏祭りなど、地域の子どもたちと一緒に作業をする機会があります。やっぱり子どもと触れ合うと元気が出ます。

また、高知大学の地域協働学部の学生も地域に入って一緒に活動

荷しています。今年はいつもより少ないけれど、2.8トンほど収穫できました。

また、12月には和紙の原料となる「若山楮」の蒸し剥ぎが行われます。例年だとイベントとして行っていたけれど、今回は新型コロナウイルスの影響で中止。その代わり、小学生の体験を例年と同じように行っています。毎年紙漉きまでして、自分たちの卒業証書を作るんですよ。

課題はやはり「人」。地域も高齢化が進み、メンバーも少なくなっています。子どもとの触れ合いはあるけれど、その保護者の世代など、後継者となり得る人たちとのコミュニケーションをどう図っていくかが大事。

このセンターが、地域の人のとって「ほっとできる場所」にしたいんです。平常時も、そして災害時も人が集う場として、隣接するあったかふれあいセンターなどもつながりを持ちながら頑張っています。

また、高知大学の地域協働学部の学生も地域に入って一緒に活動

をしています。今年はいつもより少ないけれど、2.8トンほど収穫

できました。

また、12月には和紙の原料となる「若山楮」の蒸し剥ぎが行われ

ます。例年だとイベントとして行っていたけれど、今回は新型コロナウイルスの影響で中止

。その代わり、小学生の体験を例年と同じよう

に行っています。毎年紙漉きまでして、自分たち

の卒業証書を作るんですよ。

課題はやはり「人」。地域も高齢化が進み、メンバーも少なくな

っています。子どもとの触れ合いはあるけれど、その保護者の世代など、後継者となり得る人

たちとのコミュニケーションをどう図っていく

かが大事。

このセンターが、地域の人のとって「ほっとできる場所」に

したいんです。平常時も、そして災害時も

人が集う場として、隣接するあったかふれ

あいセンターなどもつながりを持ちながら頑張

っています。

また、高知大学の地域協働学部の学生も



柚子の枝を切り落とす大石さん



地域の方と談笑する大石さん(左)

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookで紹介しします。裏表紙のQRコードからご確認ください。